これまで各地商工会議所で使用されている各地商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンプルで馴染め易いロゴマークになっています。ロゴは各地商工会議所青年部の英語名（Young Entrepreneurs Group）の頭文字をとったものですが、同時に各地商工会青年部の持つコンセプト、若さ・情熱・広い視野をもった経営者（Youth Energy Generalist）を表現しています。

VOL.44

SHOUSEI

翔生

平成18年3月号

発　行 日本ＹＥＧ
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所 中小企業振興部内
TEL 03-3283-7847　http://yeg.jp/

編　集　広報委員会
担当副会長　小谷　由美子
委員長　北野　健太郎
副委員長　宇式　寛記　益田　招宏
委員　佐々木靖彦　飯田　裕之　田中　尚仁　北川　一郎　藤原　耕
専門委員　秋山　俊介　金子　浩万　榊　かおり　浅井　秀明　林　孝光

目次

一年を振り返って（会長）…Ｐ１　（各副会長、専務理事）…Ｐ２　（各委員長）…Ｐ３
YEGホームページおもしろグランプリ、YEGシロウト川柳、広報委員より一言…Ｐ４

一年を振り返って

日本商工会議所青年部（日本YEG）
会長
荒濱健太朗

本年度、日本YEGでは、「豊かな地域の創造！　YEG Renovation!」のスローガンを掲げ、地域の視点で各事業を展開しました。地域あっての日本。地域を最優先に見つめた商青連活動こそが、時代背景から導き出される唯一の進むべき道だと考え、組織・活動の現状を見つめなおし、変えるべきは改革し、継続すべきはさらに進化を図り、効率的にかつYEGとそのメンバーの発展と「豊かな地域の創造」のために、より利用価値の高い組織となるようリノベーション（既存の構造を活用しながら改良を加え、新たな価値を持たせ共存させていくことを表した言葉）に取り組んで参りました。

また、ここ数年の課題であった年間事業サイクルの変更及び全国商工会議所青年部連合会の呼称・表記の変更に取り組み、役員会の決議を踏まえ、2月会員総会で報告致しました。新サイクルにつきましては、平成21年度より、会員総会を新たに7月に開催し（Web総会の可能性有り）年3回とします。全国会長研修会は、11月～12月上旬（現行2月）、全国大会は、年度末の2月～3月上旬（現行11月）に開催されます。当連合会の表記を日本商工会議所青年部、呼称を日本（にほん）YEGに変更（平成18年2月19日より使用開始）しました。いずれも今後、各地の商工会議所がそれぞれの地域で必要とされる組織として発展を遂げるために、将来に責任ある我々青年部、YEGが果たすべき役割の重要さを見据えた変更です。今後のさらなるYEGブランドの確立に大きな期待を寄せています。

平成17年度は、「愛・地球博」の会期中7月に全国大会愛知大会が開催されました。国際博覧会と同時開催のメリットを最大限活用し、国際性をテーマとした素晴らしい全国大会でした。主管愛知県連の皆様、改めて御礼申し上げます。

9月から開催された全国9ブロックのブロック大会は、いずれも各地域の特性・個性があふれ、地域の視点の重要性を再認識すると同時に、改めてYEGの連帯に大きな感動を覚えました。ブロック代表理事の皆様、開催地YEGの皆様本当にご苦労様でした。

11月に初の試みとして開催されたYEG東京サミットは、総務委員会を頂点として全委員会が事業を担当しました。また、創業・第二創業挑戦支援フォーラムを日商に主催頂き、全国会長交流会を愛知県連に主管頂くなど、まさに日本YEGの総力を結集して成功に導いた事業でした。

2月に開催された全国会長研修会 北海道のぼりべつ会議は、主催と主管・副主管が一致団結し参加者のために価値ある研修会を創り上げました。粉雪舞う工学院と共に、主管登別YEG40名の勇気は皆様の記憶に残ることでしょう。

前述のYEG東京サミットに代表されるように、本年度は、常設4委員会である総務委員会（落司ひとみ委員長）、企画委員会（上田健一郎委員長）、研修委員会（塚本功治委員長）、広報委員会（北野健太郎委員長）、並びにYEG情報ネット委員会（宮本俊委員長）、YEG未来創造委員会（鳥澤加津志委員長）の特別2委員会、全ての委員会が、各担当副会長の下、地域の視点を中心に据え、日本YEGの役割を自覚して素晴らしい業績を残したと自負しております。中長期ビジョンを検証したYEG未来創造委員会が、のぼりべつ会議の場で成果発表した「Renovationへの提言」も今後の方向性を考える上での貴重な財産となるでしょう。

会長として、春のブロック会議、全国大会、9ブロック大会、YEG東京サミット、そして全国会長研修会とまさに全国各地を井上和宣専務理事、地区担当副会長、福地雅人副会長（東地区）、小谷由美子副会長（中地区）、冨永洋一副会長（西地区）と共に訪問させていただき、懸命に企業活動を行いながら地域を支えているYEGの姿に触れて参りました。今、改めて、日本各地の地域に根ざしたYEGの価値とその大いなる可能性を実感しています。

次年度は、國枝恭二会長の下、さらに深化した日本YEG活動が展開される事と思います。スローガンには、「地域が創る日本の未来、故郷の新しい風YEG」を掲げられています。本年度と同じく『地域の視点』を大切にした素晴らしい活動が行われることと確信しています。私も全国各地のYEGから学ばせて頂いた多くの貴重な経験、体験を基に、精一杯支えて参りたいと思っています。本年度にも増してのご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のお力添えのおかげで、最後まで強い気持ちを持ち続け、なんとか職務を全うさせて頂けたのではないかと感じています。改めて皆様のご理解ご協力に対し、厚く御礼申し上げますと共に、400YEGと400の地域のご発展、さらには、3万人メンバーと3万社のご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

一年間のすべてに、感謝！感謝！感謝！
本当にありがとうございました。

今振り返って

副会長

國枝恭二

平成17年度は全国大会の7月開催、それに伴うYEG東京サミット開催など出向メンバーにとって例年にない企画、準備に追われはしましたが価値のある一年間であったと思います。そして私自身も今年度は未来創造委員会の担当副会長としてメンバーの熱い議論に参加しました。「YEGは必要なのか」から始まった時はどうなるかと思いましたが、せっかく費用と時間を割いて参加しているのだから無駄な時は過ごしたくない、あるいは故郷の活性化を願う全国のYEGが集うこの組織だから出来ることがあるのではないか、など期待と覚悟を持って商青連に参加していることを知り、頼もしさを感じると共にあまりの白熱した議論の前に前途の多難さも少し頭をよぎりました。しかし皆、地域が主役で日本YEGはそのサポート役であるとの共通認識の元、どこかモヤモヤしていた日本YEGのあるべき姿や問題点が整理され、少しすっきりした思いでおります。

全国の個性あるYEG、そして日本YEGに対する関わり方も様々ですが使ってくれるYEGには使える情報を提供できる、あるいは使わなければ損だぞと思える日本YEGでありたいと強く感じた一年間でした。皆様の御協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。

副会長

福地雅人

この3月で3年間にわたる日本YEGへの出向が終わります。終わってみればあっという間でしたが、この間全国各地で新しい出会いや発見があり充実した日々を送ることができました。
これまでに出会うことが出来た全ての皆さんに心より感謝申し上げます。

日本YEG活動の本質は、会員である各地YEGの為になる活動は何かを模索し、実行し続ける事だと思いますが、出向した後、その経験を各地単会事業や地域発展の為にどう活かすことが出来るかと言うのも大切だと思います。単会で活動してきた経験を日本YEGで活かし、日本YEGでの経験を地元にフィードバックするということでしょうか。

また、表記が「日本商工会議所青年部」となりました。今後は各地YEGの連携と親睦をはかる手助けをする事は当然として、これまで以上に日本商工会議所の一翼を担う活動を求められるという事も意味しますので、全国の声を代表し政策提言する日本を代表する青年部へと更なる発展を遂げる事を期待しています。

副会長

小谷由美子

「翔生」44号の発刊。14年度広報委員長としてペーパーの翔生を印刷し、全国の単会に宅配便にて会員の数プラス20部と数えて発送していた頃をしみじみ思い返しています。

「史上最強の広報委員会」「さら～と、凄い事をやってのける研修委員会」との名をいただいた17年度担当させていただいた北野広報委員長、塚本研修委員長率いる両委員会につつかれ続けたあっと言う間の一年でした。活動はHPやメルマガ、翔生などを通じて皆様に発信しておりますので、ボリュームは感じていただいたことと思います。

17年度荒濱会長スローガン「豊かな地域の創造！　YEG　Renovation！」を実行し、考え続けた一年でもありました。

地域のすばらしい会員の方との出逢いと、地域を愛して、地域のために活動することの意義、可能性を教えていただきました。改めて、自分の地域を新たな視点で創造することが出来るように思います。
そして、出向いただいている地域を代表する理事の皆様の地域を大切にされている思い。「自分たちが変えなければ変わらない」と言われた会員の方の言葉に地域だけでなく、自企業もすべて共通することだと強く思いました。

個人的には、初めて日本YEG事業に参加し「第二創業支援プロジェクト」準グランプリをいただく貴重な経験もありました。参加して会員ひとりひとりにチャレンジいただきたい事業だと痛感しました。日本YEGという地域のリーダーが会員のために考える事業の精度の高さは今後ますます、日本商工会議所の青年部としてリアルタイムな情報と機会をもらって充実していくことをご期待ください。そして、ご参加ください。
すべての皆様に感謝します。ありがとうございました。

副会長

冨永洋一

「私には守り札がある。それは孟子の『至誠にして動かざる者は未だ、これあらざるなり。誠ならずして未だ、よく動かす者はあらざるなり』という言葉だ。私はこの至誠の二文字を守り札に持って行く。」安政の大獄で我が郷土の「維新の志士」吉田松蔭先生が江戸に護送される際、心配する弟子達に言った言葉です。「至誠」とは誠を尽くし、真心で生きる事。今年度の荒濱健太朗会長は、「至誠」を大事にし、不退転の決意で全ての事にあたってこられました。又、その陰に井上専務理事の存在も大きかった事は言うまでも有りません。副会長の器では無く、日本YEGの知識も乏しい私が会長からの依頼をお受けしたのは、まさに会長と専務理事の「至誠」に打たれたからでありました。

「豊かな地域の創造!YEG　Renovation!」のスローガンを掲げ、私達三役は一枚岩になって一年間、方針がぶれずに「至誠」を持って取り組んでまいりました。その結果、様々なリノベーションが成し遂げられたと思っております。

この数年間、私達を取り巻く価値観そのものが日々めまぐるしく変わっており、全ての事柄に様々な素早い対応が要求されております。

今後も日本YEGは、全国組織のスケールメリットを活用して各単会の皆様に必要な情報を提供し、時には一緒になって仲間として行動しなくてはなりません。そういった意味でも今年度の活動はリノベーションの第一歩になったものだと確信しています。

私自身、今年度は貴重な経験をさせて頂き、又、様々な勉強をさせて頂きました。この体験を基に私の周りの環境を、リノベーションし、愛をきわめ、新たな気持ちでRE STARTして、凛として起ち、頑として進んで行こうと思います。

日本YEG活動でお世話になりました全ての皆様に心より御礼申し上げます。本当に本当にありがとうございました!!!

専務理事

井上和宣

全国YEGの皆様、本年度共に活動した日本YEGの皆様、一年間、大変お世話になりました。また、数え切れない皆様方のお力添えに対し、心から感謝申し上げます。

今振り返れば、自分では遠い道のりでした。一昨年8月、米子で荒濱健太朗君にお会いして、お互いの想いを語り合いました。「一年を、全国400YEGと3万人メンバーの将来ために捧げる覚悟がありますか?」と問いかけた記憶があります。彼は、「僕に失うものは何もない。将来のYEGのために、たとえ一人になっても、信じることをやり遂げたい。」と……。

『豊かな地域の創造！ YEG Renovation!』のスローガン、そして既存の構造を活用しながら改良を加え、新たな価値を持たせ共存させていくと定義した「リノベーション」という言葉を心の中心に据えて、日々、荒濱会長と共に、全ての事例、事象を、決して前例に捕らわれることなく、400YEGと3万人メンバーのためにというフィルターのみを通して考え、活動して参りました。皆様方には、私共の経験不足、力不足で多々ご迷惑をお掛けしたこともあるかと思いますが、その真意に免じお許し頂きたいと思います。

この一年を通じて、素直に感じたことは、『YEGには、無限の可能性がある。将来の地域を支えるのは、YEGだ。日本を動かすのは、YEGの連帯だ。』ということです。

今後のYEGの発展を一YEGとして応援し続けることをお約束申し上げ、締めくくりの言葉といたします。一年間、本当にありがとうございました。

総務委員長 落司ひとみ

まずもって、一年間総務委員会の活動に御協力をいただきましてありがとうございました。御陰様でなんとか一年を終えることができましたことを感謝申し上げます。今年度は3回開催されました会員総会でしたが、執行部のみなさまや日商事務局様にご指導・ご助言をいただきながら乗り切った「YEG東京サミット」は今年の総務委員会の大仕事だったと思います。初めての開催で、何をどうしたら良いのか解らず、ずいぶん悩みましたが、各委員会とのみごとなコラボレーションとなって大成功だったと自画自賛しております。少し欲張って詰め込み過ぎたところはありましたが、ご出席いただいた皆様にほぼ、ご満足頂けたのではないかと思っております。毎回の役員会の報告レポート作成、春と秋のブロック会長会議の議事録作成、そして「電子会員総会」に向けての規約の改正・細則の制定。又、呼称表記の変更など、苦労もありましたが、結果も残せたのではないかと思っております。最後に、支えてくれた総務委員会のメンバー、各ブロック大会、愛知全国大会、登別会長研修会でお世話になりました多くの皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

企画委員長 上田健一郎

本年度当委員会で特に重点をおいたことは、荒濱会長の言われる「日本YEGは400YEGのお世話係り」を如何に反映させ実践していくかでした。諸先輩が築き上げてきた定例活動を踏襲しつつ、それら一つ一つを丁寧にそして常にこれは何のために行うのかを自問自答しまた委員会メンバーと共に考えながら、各種大会を通じて400YEGに役立つ委員会を目指しました。どの大会もまた主催主管どちらも参加者満足の追求は共通のテーマでありますが、100%満足は難しいと感じる反面、どの大会にもドラマがありそして感動的な場面に幾度も遭遇し、その度にひたむきに物事に打ち込むことの尊さとYEGの素晴らしさを改めて感じました。全ての大会に参加して自信を持って言えるのは、YEGは確実に進化しているということです。今後も各種大会が、参加メンバーにとっても主催主管する青年部(連合会)にとってもより有意義で実り多きものになることを心から祈念しています。最後に、各種大会にご参加いただいたYEGメンバーの皆様、そして大会を主管していただいた青年部(連合会)の皆様、本当にありがとうございました。

研修委員長 塚本功治

本年度研修委員長を勤めさせて頂きました島根県連出雲YEGの塚本です。日本YEGへの出向は昨年の10月から出向で、ほぼ毎月どこかの地に出かけ諸会議に出席し、全国のYEGメンバーに役立つ研修を研修委員会全体で作り上げてまいりました。全国大会愛知大会の分科会に位置づけておりました(美)の分科会、国際交流事業をスタートに11月開催の東京サミット時に企画いたしました翔生塾では、各界の第一線でご活躍の3名の講師による講演会に予定を上回る登録を頂き、参加された265名の方々には自社事業の今後の発展のヒントを多く持ち帰って頂けたと思います。次には“第二創業支援プロジェクト”の企画運営。「皆様のビジネスのアイディアを第二創業の形で実現しませんか」をテーマに実施いたしました。最後の事業、YEG大賞ですが、研修委員会一丸となりメール送信、電話でのエントリー促進と気を緩めることの出来ない日々を過ごしました。その結果として全国の単会より112の事業をエントリー頂き達成感と共に皆さんのご協力に感謝いたしました。17年度研修事業の集大成として望んだ事業、各方面より評価を頂き本当に嬉しく思いました。この1年、研修委員会の皆さんの不思議なる力(研修委員会の底力とでも言いましょうか)に支えて頂いた委員長として事業の1つ1つが思い出されます。研修委員会の皆様本当にご苦労様でした。そして皆様に出会えた事を感謝いたします。

広報委員長 北野健太郎

16年度半ばに鳴った荒濱会長からのコールから、早や1年半。長そうで短かった17年度広報委員会も、何とか無事にゴールテープを切ることができました。年度を通じて、ファインダーを通し、また、頂いた原稿を通じて、拝見させていただいた皆様方の活動は、本当に素晴らしいものばかりだったと思います。どうぞこれらを、どんどん日本YEGが持つネットワークとITツールを活用して、「共有」また「アピール」して行って下さい。きっとどこかで、それが素になって、これまでよりもさらに発展した、さらにいい事業が発生することと思います。「過年度に作られた素晴らしい、ツールや素材を受け継ぎ、しかも、前年度に自分も参画して作ったそれを、いかにして伸ばして活用するか?」が、今年度委員会に課せた目標でありました。今年度スローガンだった「YEG Renovation!」の実現です。しかしそれも何とか、皆様方のご理解とご協力を経て、実を結ぶことができました。改めて御礼申し上げます。

YEG情報ネット委員長 宮本俊

当委員会の活動は実際にITツールのユーザーとなっていただくためYEGメンバーに直にお会いしてそのメリットを説くという性質上、実際に各地区にお邪魔するという足で稼ぐ活動となりました。その意味で手分けして訪問した春の会長会議、秋のブロック大会の計18箇所におけるプレゼンに加え依頼があったYEGでの勉強会と各委員には熱心に活動をして頂きました。YEG間のビジネスについては、まだ疑問視される方もいらっしゃるようです。しかしビジネス交流会を実施してみて分かったことですが、相手先が取引上安心でき、同じような環境で各地域でがんばっているYEGメンバーであることのメリットは大きく、その可能性は無限に広がっているという印象を持ちました。具体的に取引を行うという話やコラボレーションを計画中であるとかいいアドバイスが得られたという話を伺うにつけこの委員会の存在意義というものを改めて認識させられました。1年間、あっという間にもうおしまいという感じは否めませんが、活動を共にしてくれた委員の皆様、各地区で我々を快く受け入れお話を聞いてくださった皆様にあらためて感謝の意を表したいと思います。
ほんとうにありがとうございました!!

YEG未来創造委員長 島澤加津志

YEG未来創造委員会では、荒濱会長のRenovationというスローガンを受けて、年間事業サイクルの検討、日本YEGの組織改革、中長期ビジョンの検証という3つの大きな柱を立てて事業を行ってきました。年間事業サイクルの問題では、私たちは各大会の本質は何かを検討して、結果として今回の形になりました。また、組織改革、中長期ビジョンもやはり本質は何かを考えて、登別の全国会長研修会で『Renovationへの提言』として発表させていただきました。多くの人に迷惑をかけた委員会でしたが、その多くの人に支えられて一年間活動できたことを心より感謝します。そして最期に全国のYEGメンバーにお願いですが、全国各地の意見を取りまとめ、更に検証をして委員会で出した提言を、今後も各地で検討して、更にスケールアップして頂き未来への提言を日々更新していただけることをお願い申しあげます。YEGの組織改革とは意識改革であり、自らの組織は自ら修正できる自浄作用のある組織としなくてはいけないのではないでしょうか?一年間ありがとうございました。

YEGホームページおもしろグランプリ

平成17年度日本ＹＥＧ広報委員会では、各単会の広報及び情報発信ツールとしてのＨＰをより多くの方に伝承していきたいと考え、表記の最優秀賞と優秀賞を決定させて頂きました。

審査の選定基準は、

1）更新が多くて目新しいか？
2）会員の情報が充実しているか？
3）青年部の活動がわかりやすいか？
4）交流が盛んに行われているか？
5）何かを起こしている風を感じるか？
6）日本ＹＥＧのホームページの関連リンク（単会リンク）に掲載されていること

とさせていただきました。審査期間中には、頻繁なホームページの更新等、各単会の皆様には大変お世話になりまして、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

今後も、日本ＹＥＧ広報委員会の委員会事業に深いご理解とご協力を重ねてお願い申し上げまして、発表と報告にさせていただきます。

最優秀賞　上尾ＹＥＧ
http://www.ageocci.or.jp/yeg/

優秀賞　帯広ＹＥＧ
http://obihiro.yeg.jp/

柏ＹＥＧ
http://kashiwa.yeg.jp/

特別賞　鹿児島ＹＥＧ
http://www.kagoshima-yeg.com/

シロウト川柳年間最優秀作品発表!!

昨年11月16日～3月15日まで4回の期間に分けて皆様からご応募いただき、先週号までに総数で100首余のご応募いただき、その中から計20首を最優秀・優秀作品として発表させていただきました。今年度は、毎月の最優秀作品から『年間最優秀作品』を選定いたしました。

《年間最優秀作品》（第4回最優秀作品）
◎ 荒浜の　砂に浮かぶは　ありがとう！
岡山県／岡山YEG　井上　和宣

《年間優秀作品》（第一回最優秀作品）
○ ＹＥＧ　今年で卒業　次どこへ
愛知県／刈谷YEG　天野　信之

《年間優秀作品》（第二回最優秀作品）
○ 家守る、家内にそっと、ほほえみを！
鹿児島県／鹿児島YEG　大脇　唯眞

《年間優秀作品》（第三回最優秀作品）
○ 青年部　出掛ける度に　二日酔い
三重県／名張YEG　垣本　佳之

とかく川柳というと、五・七・五の俳句調の様式からか堅苦しく考えがちですが、毎回優秀作品がメディアに取り上げられるサラリーマン川柳や時事川柳などを覗き見ますと、その時々の世相や作者の心情、実体験が垣間見られ面白い反面、何気なくそして見逃しがちな出来事が、少々皮肉が織り交ぜられたり、正直な感想が込められていたりと、実に見事に表現されている事に気づき感心させられます。

『ＹＥＧシロウト川柳』にも、作者の所属する単会の事情やＹＥＧに対する熱い思いやジレンマが込められていて、詠み手・ご覧頂いた皆様双方で楽しんでいただけたのではないでしょうか。私たちが、仕事をする上で、また地域活性を進めて行く上で、ともすれば見逃してしまう出来事に案外大きなヒントが隠れている事があります。川柳は、そんな気づきや柔軟な発想のトレーニング、そして歳を重ねるごとに衰えがちになる脳の活性化には効果があるようです。皆様もこれを機会に『川柳』で脳のトレーニングをしてみませんか。皆様の多数のご応募ありがとうございました。

一年間お世話になりました

広報委員より一言

「一年半のロングラン！　支えは委員みんなの心意気!!
一年間の皆さんのご苦労に感謝<m(__)m>」委員長

宇式　寛記
「感動いっぱいありがとう」

益田　招宏
「我が17年度広報は
永久に不滅です!!」

佐々木靖彦
「ビバ!!広報」

飯田　裕之
「平成17年度広報委員会
自分たちを褒めてあげたい!!」

田中　尚仁
「成せば成ってしまった!」

北川　一郎
「暇と金があれば何度も
出向したい集まり!」

藤原　耕
「最高のメンバーと共に過ごせた
充実の1年に感謝!」

秋山　俊介
「滅入るマガジンでも楽しかった!」

金子　浩万
「広報委員会メンバー＋
ハードな取材活動＝
でも、笑顔がいっぱい」

榊　かおり
「17年度広報委員会は
一生の宝物です」

浅井　秀明
「一年間、充実しました。
ありがとうございます。」

林　孝光
「ありがとうから明日へ。」